

北海之光

6月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「二度とない人生だから」

帯広聖公会牧師補
執事 エリザベツ 阿部 恵子

二度とない人生だから
一輪の花にも

無限の愛をそそいでいこう

二度とない人生だから

つゆくさのつゆにも

めぐりあいのふしぎを思い

足をとどめてみつめてゆこう

これは祈りの詩人と言われる
坂村真民の詩の一節です。

真民はイエス・キリストと釈迦を詩の導師と仰ぎ、父が八歳で急逝したことによって、「人間としてこの世に生まれ、

どう生きるか」を最大の課題としたのです。詩集のタイトル、「二度とない人生だから」と言う短い言葉には、生き方の光と闇への方向性の接点が含まれています。つまり、「人生は一度きり」と言う考え方は、人間を二方向に分け、一方は人を良い方向に向かわ

せ、もう一方は人を悪い方向に向かわせるのです。どうせ、この世は一回きりだから太く短く面白くぱつと生きようとする者は、後者、つまり、闇の方へ向かい、この世は二度とないのだから、生きられるだけ生きて生まれてきた意義を見出し、世のため人のため何かをして大切に生きようとする者は前者、光の方へ向かうのです。冒頭の真民の詩には光の方へ向かう生き方が見出せると思います。彼は毎晩重信川を渡り、その河原で月と明星の光の下で祈り、おおいなる方との静観なひと時を得、詩作に没頭したのです。

光への生き方をした真民の生涯の師は、捨て上人と言われる一遍上人です。彼の言う「捨て」とは、物を捨て、自己を捨てて神を信頼して生きることです。同じような生き

方をした人をキリスト者に探してみますと、私達の良く知る聖フランチェスコやマザーテレサを見出すことが出来ます。フランチェスコはお金持ちの家に生まれながら、父の面前で着ている物を脱ぎ、所有するお金も父の足元に置き、父に返し、自己を捨てたのです。そして、マザーテレサは、生涯を一修道女として生きるのではなく、第二の召命を受けた後、この地球上で最極貧の地と言われるカルカタに一人降りたのです。この三人の共通点は、「清貧、無所有、謙讓、博愛」と言えますが、何より、自己を捨て、神に祈りながら、すべてを委ね、他者のために光への道を「実践」したことにあります。

その光の源である私達の救い主、贖い主、導き主であるイエス・キリストは、十字架の死から復活された後に、たくさんの弟子たちの前に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われ、父の右に上げられたのですが、その際イエスはこのように言われたのです。「わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る」と。「約束されたもの」、それは私達が、二度とない人生の中で、唯一度だけ、「神を信じ」、「イエス・キリストを信じ」、「聖霊を信じる」と告白をした「洗礼」から、光を目指し今も歩み続けている私達全ての心の奥にすでに与えられている「聖霊」なのです。聖霊はいつも私達の傍らにいて下さいます。しかし、この度の感染症のように未知のものが、突然私達の目の前に出現してくることがあっても、たとえどのような状況が私達に与えられたとしても、私達は光を信頼し、全てを委ねながら歩むだけで良いのです。なぜなら、いつも私達を迷うことなく光へと誘ってくださっているのは、神ご自身だからです。「二度とない人生だから」これからも光を見つめて、皆で歩み続けて行きましょう。主にあってすべにて感謝。





—心の窓をひらいて—

福音と私(二三八)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

帯広聖公会信徒

テレジア 藤江 操



【好きな聖歌】

「あなたの平和の器にしてください」

(聖歌四一七番)

「福音と私」の原稿を書いてほしいのですが、お願いできますか、と阿部先生からお電話をいただいたとき、私は自分がその原稿を書くほどの信仰心を持っているか考えもせずに「はい」と返事をしてしまいました。しかし、そのあとで、「福音と私」のサブタイトルに「今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか」とあることを思い出し、改めて「本当にキリスト者として生きているのか、この原稿をお引き受けする資格があるのか」と自問自答し、悩むことになりました。

空知管内深川市で育った私

が、いつも目にしてきたのは、熱心に教会(深川聖三教会)に通う父の姿でした。教会のことを何より大切に生きている父の姿でした。ささやかなつましい食事の度に祈り、父のお祈りが終わって食事が始まる、そんな家庭で育ちました。しかし、そんな父も洗礼については本人の意思に任せていました。ですから私が受洗したのは、兄たちと同様、高校生の時でした。

私の中学生時代は、今思えば出しても恥ずかしいくらい生意気で、生徒会活動に熱心し、担任の先生の言うことはまず聞かないやんちゃな生徒でした。その頃の通知表を見ると、その時代の暴れまわり

程度が目には浮かびます。それでも、日曜日には教会に行き、お祈りをし、聖歌を歌っていました。幸いなことに、その頃の我が家は教会のすぐ近くに引っ越してしまいましたから、日曜日になると教会に行くことを当然のように受け止めていました。

大学卒業後、就職したのは雑誌「暮らしの手帳」で「日本一寒いまち」と紹介された陸別町でした。教会ははるかに遠く、車もない時代でしたので、仕事の忙しさもあって、教会に行くことはまれになりました。

仕事は楽しくやりがいもありました。そこで夫と知り合いました。結婚したのですが、キリスト教への拒否感の強い人でしたので、教会は更に遠くになってしまいました。

夫が癌を患い、死が迫ってきたときに言った言葉は「俺の葬儀はキリスト教では絶対しないほしい」ということでした。結局彼の葬儀は近所のお寺にお願いしたほどでし

た。

そんなこんなでただでさえ遠かった教会が更に遠くになってしまいました。

再び教会に行こうと思えるようになったのは夫が病没してからでした。しかし仕事はますます忙しく、教会に行くのはクリスマスか新年の礼拝くらいのものでした。

そんな私に教会に行く生活に戻ったのは、あるコンサートの後、出口でばったり小貫耕喜さんにお会いしてからでした(小貫さんとは仕事をしていた頃同じサークルで一緒でしたし、何よりも奥様の睦子さんご一家は深川の教会で何かとお世話になった方々でした。)その時「教会で待ってるよ」と声をかけられたのです。

私の気持ちの中にどこかでその言葉を待っていた気がします。今思えばその頃胸の中

はきつと教会に行きなさいということだったのだと思います。いつも「わたしは…」と

肩ひじを張って生きてきた自分から、神を信じ教会に通う自分に戻りなさいということではなかったかと思えます。

以来、日曜日になると可能な限り教会に行くようになりました。久しぶりに教会に行った日の聖餐式の折の李司祭の祝福の手の温かかったこと。その後、深川にあった教

籍を帯広聖公会に移し、堅信礼を受けさせていただきました。私が教会に行っている間は、信徒の皆さんが自分のことより先にまず教会のこと、そして他の人のことを考え、行動しているということでした。

こんな信徒の方々がいらっしやるのが、教会を確かに存立させているものになってくるのだらうと思えます。

私は今、「私をあなたの器にしてください」と歌い、祈っています。自分にできることは何なのだろうと改めて聖書を読み、この聖歌の意味を考えています。

常置委員会報告

第八回 五月一二日

《協議事項》

一、二〇一九年度教区決算報告に関する件
 ・提出された決算書を承認した。

二、新型コロナウイルス対応に関する件
 ・礼拝に関しては六月中はこれまでの対応を継続。また教会での小規模の集会などについては感染対策を講じた上で実施可とする。各教会の会計状況についてのアンケート調

査に基づき各教会に対する配慮を引き続き検討し、適宜実施する事とした。
 三、「教区の日の献金」に関する件
 ・教区の日の献金は、海外宣教の為(特にコロナウイルス関連の支援活動)に捧げる事

を確認した。
 四、「出会いと交わりの日」に関する件
 ・今年中止とした。
 五、秋の教役者会実施に関する件
 ・時期と方法について再検討することとした。
 六、財政部長選任に関する件
 ・橋本知樹さん(帯広聖公会)を選任した。
 七、管区人権セミナー(会場:北海道)に関する件
 ・一年延期を申し入れる。
 八、ユースアッセンブリーに関する件
 ・今年度は中止とした。



主教室より

今年のイースターは紋別聖マリヤ教会に巡回。それ以降、札幌在住の私は主教室巡回自粛を余儀なくされています。例年なら今頃は前期の主教室巡回日程に従って、道北、道東、道南へと出かけているはず。私にとっては巡回で信徒の皆さんとお会いし、ともに聖餐に与り、交わりの時を持つ…。それは当たり前のことでした。この二三年間、

どれほどその巡回で私自身が強められ、祝福されたことか、今まさにそのことを思い巡らし、辛い思いです。身の置き場がない…。一つの教会の信徒の皆さん

の顔を思い浮かべ、あの方はどうしておられるだろうか、あなたの方のご病気はどうなっただろうか、あの方の家族は…と、祈りの中で問うばかりです。札幌市内の教会でもご自宅での礼拝を捧げておられる方が多く、やはり思いは同じです。それぞれの教会の教役者たちは、いろんな工夫を凝らし、できるだけ、お一人おひとりとの交わりを絶やさないようにと、やはり思い巡らす日々でしょう。

人間の計画のなんと脆いことか、改めて思い知らされました。本来ならば、六月の初めに管区の総会も終わり、私は首座主教としての働きを終えているはずでした。その後のことを、私

なりにいろんな夢をもって描いていました。退職までの一年一〇カ月、今までで巡回に合わせて病気の信徒の方々や、しばらくお顔を见ない方々を訪ねること、あまり関われなかった地方の幼稚園、保育園に出向いて行って先生方、子どもたちと過ごすこと…。これからはそんなことをする時間も与えられない。そのような私のささやかな計画も覆される今回のコロナの波でした。

今、このような困難な状況下にあっても、そこに主のご計画があることを信じ、新たな歩みが始められるように心を奮い立たせて祈ります。

主教 ナタナエル 植松 誠

堅信式受領

おめでとう

- 札幌キリスト教会
- ダニエル 原田 篤生
 - アグネス 宮本 実
 - フランシス 宮本 潤
 - ニコデモ 宮本 敦
 - ジャスティン 加藤 光
 - ヨセフ 井上 計三
- (五月三十一日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

七月八日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教室聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 林 稔

伝道師 小川 淳 一

一九七八年七月一日

主教室 渡 迎 政 直

二〇〇二年七月一〇日

司祭 今 井 四郎太

一九四六年七月一日

司祭 野 村 義 雄

一九六二年七月一日

伝道師 黒 田 富 雄

一九九四年七月一日

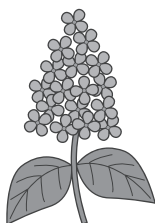
司祭 木 村 定 三

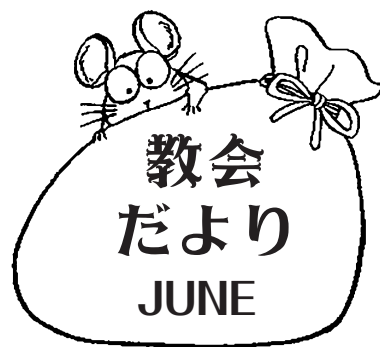
一九四五年七月一日

伝道師 ジェーン

A・ステューブリー

一九六三年七月二四日





▽旭川聖マルコ教会

五月も新型コロナウイルス感染症拡大対策で週報のお知らせ欄は様々な集会が中止・延期になったことを「お知らせ」しています。四月一日付で函館聖ヨハネ教会からパトリック山本哲也さん、四月三〇日付で札幌聖ミカエル教会からオーガスチン秋江忠幸さんの教籍が届き、お二人を迎えたマルコの若返りが期待されます。五月一〇日、パウロ萩原慶男さんの埋葬式が教会共同墓地で行われました。今月は委員会を二度開き、このような時期の中型教会の集会等の在り方を検討しました。

保育園はコロナに負けず皆元気いっぱい。江丹別畑の芋植えや園庭畑の野菜植えに興じています。登降園時の手指

の消毒はどの子にも定着し、この時代に育つ姿に複雑な心境です。

▽岩見沢聖十字教会

五月も道よりの緊急事態宣言を受け、引き続き礼拝は休止、園も休園。そのような中、一日から預かり保育を開始。皆さん、もう暫くの辛抱です。

市から各家庭に定額給付金の案内が届く。ある姉妹が「受け取って経済活性化の為に地元のお店で消費しましょう」と。国からの計らいに心より感謝します。そして、頑張れ日本、頑張れ岩見沢。

月末、礼拝堂完成以来の和紙のステンドグラス五枚を張り替え。ミカエルの遠藤淳治兄ご紹介の業者さんが施工。とても綺麗な仕上がります。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

釧路の初夏を告げる、海霧の季節がやってきました。春は何時来たのか記憶に残らない二〇二〇年でした。

長い冬が終わり新学期・イースター・聖霊降臨日と教会は賑わう季節ですが、世界中が新型コロナウイルスに包まれてしまい、復活節主日礼

拝が寂しい年でした。以降、色々な会合、催し物が延期、中止になりました。

五月の主日礼拝は、出席が信徒二名の日もありましたが、五〜六名で礼拝を守り、氏家節子さんは皆勤賞です。マスクをかけ礼拝堂の四隅に席をとり、『主の平和』を合図に窓を開け換気。

聖歌は僅かな出席者がマスクを通し、皆の分もと大きな声で歌っています。

五月一日、松井司祭、氏家さんが厚岸聖オーガスチン教会訪問。讃美歌、お祈りを捧げ教会に風を通してきてくださいました。今回は草刈りの予定です。

二六日、今年度初めての保育園のお誕生会が行われました。松井司祭は久しぶりの「チャプレン」で園児に接し、元気を貰われたようです。

▽小樽聖公会

五月上旬、小樽の各所で桜が満開。教会最寄りの南小樽駅は、古い駅舎を背景に桜の写真が撮れるとあって毎年人気ですが、今年は見応えとは反対に人出もごくわずか。現在進められている駅舎のバリアフリー工事によって趣のあ

る跨線橋は来春までに架け替えられるそうですが、見事な桜の木はなんとか残りそうです。

教会行事では、五月一七日に予定されていた墓地礼拝は中止され、教会の礼拝のなかで墓地に眠る人びとと家族のために祈りしました。また、毎年六月の教会バザーも中止が決定され、今年は奉仕ではなく献金でバザーに参加することといたしました。

▽帯広聖公会

連休中に市内の桜は満開に。今年はマスクをして愛でる人が多かったようです。

今月も信徒はそれぞれの場所で礼拝を守り、神様との豊かな交わりの時を過ごしました。また神学院の「奉仕・召命コース」に尾関敏明さんが入学し新生活を始められました。実りある学びとなりますように。

牧師館は外壁改修工事を終え、劣化が見られた木製の教会案内板も新しくなりました。これらの恵みに感謝します。

早く安心して皆が集える日が来ますように、決して揺らぐことのない神様に信頼して

祈ります。

▽新冠聖フランシス教会

新冠での最後の礼拝は四月一二日の「復活日」でした。それから一か月後の五月二二日(火)、司祭は「み国が来ますように」の小冊子を携えて幾人かの信徒のお宅を訪問し、祈りをして参りました。みなさま、お変わりなくお過ごしの様子に安堵いたしました。

六月に入ったならば、是非にもともに、賛美と感謝の祈りを献げたい。旨のご案内を差し上げたところです。

個人消息―奥田貞子さん、市街地の町営住宅へ転居。小泉たかしさん、無事退院されました。

▽室蘭聖マタイ教会

桜開花と共に次々と花が咲き始め、一年中で一番良い五月ですが、何か重苦しい雰囲気包まれた日々です。

三日、信徒のみでみ言葉の礼拝を守る。

一〇日、吉野司祭来会、聖餐式説話はイエスの道について学ぶ。私達の稽古は皆で心を合わせ礼拝、一人での学びは祈り、聖書を読む事、と話される。礼拝後委員会、三教

区合同礼拝中止となる。

各家庭に一一日間の祈りの葉式文を送ってください。

二四日、吉野司祭来会、聖餐にあずかる。新型コロナウィルスの一日も早い終息を祈るばかりです。

▽札幌キリスト教会

五月一〇日、村瀬一子さんが逝去。二五日、後藤義美さんが逝去されました。一六日、堅信準備を終えた子どもたちが花苗を植栽。二三日、婦人会有志による教会の清掃が行われ、教会が明るさと清々しさを取り戻しました。聖霊降臨日、植松主教様の巡回のもと、久々に八〇名の出席。宮本淳さん、加藤光さんのお二人が、洗礼・堅信。井上計三さん、宮本実さん、宮本潤さん、原田篤生さん四人が堅信の恵みにあずかりました。福島康高さん・知子さん夫妻に、ひかりちゃん、誕生。清田倫久さん・明日夏さん夫妻に、愛翔ちゃん誕生。

▽札幌聖ミカエル教会

五月も幼稚園は少人数の預かりを除いて休園措置。平日はひっそりとしています。日曜日は朝七時半と一〇時半、それぞれ一二三名が出席し

て礼拝を守っています。教会

委員会では協議の結果、今年夏はバザーを中止、墓地礼拝は埋葬する方のご家族のみの出席で、二回に分けて行うことに決定。様々な影響がありますが、なんとかこんな状況でも好機にできないものかと考えます。三一日、臨時堅信受領者総会を開催、幼稚園の幼保連携型認定こども園としての新築計画に伴い、牧師館、多目的施設 HERBA の新しい形への移行を決めました。主の導きを祈ります。

▽新札幌聖ニコラス教会

外出の制限を強いられ教名で守られる主日が続くなか二四日、礼拝に植松主教のご来臨を得る。三密を避ける新型コロナウイルス感染予防の礼拝様式のなか陪餐はことに慎重を期する。同日、津田一枝姉の手による神学校産夏みかんジャムのうれしい入荷も。教会委員会では在宅にて参加を可能とする携帯電話を使用したりモート会議を試行、有効性を確認。色とりどりとなつていく教会花壇の彩は週報の華ともなり、教会に届けられる祈りや近況報告と共に信徒宅に届けられている。

▽稚内聖公会

都市間移動制限が解除されたことから六月二日、ペンテコステ礼拝。教会のライラックも花開き、聖卓前を飾る。本原さんは、手術後三年を迎え、お元気で良き信仰生活を送っておられる。観光客の来ない街は、閑散としているが、樺太航路の発着地であったドーム公園に昭和の大横綱大鵬の見事な記念碑が完成。樺太引き上げ後の大鵬一家が上陸したところ。北緯四五度三分の稚内は夜八時を過ぎても水平線に夕焼け色が残っている。白夜だ。

▽苫小牧聖ルカ教会

今年も教会前の桜が満開となり見上げると心が和みます。新型コロナウイルスの影響で、礼拝は短縮版聖餐式文を使用し、聖歌も一曲のみです。礼拝出席者は毎週数人で、感染対策で消毒はもちろんのこと長椅子には一人が座り、聖餐が終わるとお茶会等集会には自粛なのでお互いの話もそこそこに教会を後にします。

色々と行動が制約されている中で聖餐に与ることを感謝しています。五月に予定されていた胆振三教会合同礼拝も中止となりました。幼稚園からの賑やかな声も聞こえません。

一日も早く多くの皆さんと共に礼拝できることを祈っています。

▽函館聖ヨハネ教会

函館は学校通常再開に向けて分散登校が始まっています。桜の散った後の青葉が初夏の香りを漂わせていますが、北九州市で「第二波の恐れ」という不気味なニュースが流れ、明るい陽光のような気持ちになれるのはまだまだ先のようです。

▽紋別聖マリヤ教会

五月に入り、オホーツク地方は気温が低く雨模様のごずついた天候が続いています。新型コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言発令中で、外出自粛モードの中で各自家庭礼拝が主なる礼拝になり定着しつつあります。「新しい生活様式」のひとつでしょうか。長年、紋別聖マリヤ教会の信徒であり当教会の先駆者でありました村瀬一子姉が五月一〇日に逝去されました。

▽平取聖公会

五月三日、一二名、一〇日、一九名、一七日、二三名という人数で礼拝が守られています。草取り・花植えなどのご奉仕をしてくださる信徒の皆様を支えられています。

▽平取聖公会

新型コロナウイルス禍を皆

さんはどう乗り越えられたでしょうか。大斎節、イースターに三密を避けて礼拝に出席出来た方もおられるでしょうし、お仕事やご家庭の事情で感染防止のため、三月から六月まで礼拝出席を自粛された方もおられるかもしれません。

一九八五年に中村あゆみさんの歌でヒットした「翼の折れたエンジェル」の歌詞の中に「あいつもあたしも 翼の折れたエンジェル みんな翔べないエンジェル」とあります。イエスが復活して翼で天に昇り、聖霊を下してくださったペンテコステがやって来ます。希望を持って。

▽紋別聖マリヤ教会

五月に入り、オホーツク地方は気温が低く雨模様のごずついた天候が続いています。新型コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言発令中で、外出自粛モードの中で各自家庭礼拝が主なる礼拝になり定着しつつあります。「新しい生活様式」のひとつでしょうか。長年、紋別聖マリヤ教会の信徒であり当教会の先駆者でありました村瀬一子姉が五月一〇日に逝去されました。

▽平取聖公会

五月三日、一二名、一〇日、一九名、一七日、二三名という人数で礼拝が守られています。草取り・花植えなどのご奉仕をしてくださる信徒の皆様を支えられています。

▽平取聖公会

五月三日、一二名、一〇日、一九名、一七日、二三名という人数で礼拝が守られています。草取り・花植えなどのご奉仕をしてくださる信徒の皆様を支えられています。

▽平取聖公会

五月三日、一二名、一〇日、一九名、一七日、二三名という人数で礼拝が守られています。草取り・花植えなどのご奉仕をしてくださる信徒の皆様を支えられています。

召された村瀬姉の魂の上に天国での平安が、またご家族の上に主の慰めがありますように。

▽有珠聖公会

新型コロナウイルスの影響により、五月の聖餐式も、四月に続いて中止としました。礼拝が中止となった日、信徒の有志が集い境内地の草刈りが行われました。

「HO」という月刊誌の六月号が有珠を特集し、有珠聖公会・バチラー夫妻記念聖堂も大きく紹介され、多くの反響をいただいています。六月からは、土曜日の開館事業も再開の予定です。

▽留萌キリスト教会

緊急事態宣言が続く北海道の五月、新型コロナウイルス感染者数に目をやりながら、やるせない思いが続きます。現在行っている対処が妥当かどうか、この教会の今後のありかたについて孤独に考え続けている状態です。

一二日に聖餐式と短縮教会委員会を行い、七月のバザーの中止を決定。市内の夏祭りが全て中止になり、万が一客がバザーに押し寄せると密集になると判断しました。

このような状況の中、祈りと献金を熱心にお届け下さる信徒らに感謝ひとしおです。

▽今金インマヌエル教会

毎日テレビで感染した人が増えていないかを確認する日々が続いています。皆と顔を合わせなくなり、心が弱りそうになると不思議と引きもどされました。八日の道新道南版でインマヌエル教会の事が掲載されていました。藤井司祭、直さん、山崎二三子姉の姿を見る事ができました。当日は風が強かったとの事、帽子があり良かったですね先生。毎年インマヌエルを見守ってくれている雪の十字架は早々と溶けてしまいました。祝福を受けた種が秋に実り、皆で集まり感謝できる事をお祈りしつつ。

▽北見聖ヤコブ教会

三〇度を超える日もあり、つい最近除雪機を持って行っていたいだいたばかりなのになあと驚く北見です。

窓の雪囲いを外すと台所が明るくなり感謝です。コロナの関係でギデオンの協会の方々の報告と証しの会が持てなくなったのは残念でした。先日ダスキンの方が交換に来てく

ださったのですが、今の大変さを語らうことが出来ませんでした。

互いに労り合い、支え合っています。六月七日の聖餐式・教会委員会をもって(対策を講じながら)通常通りのスタートとなりそうです。

▽網走聖ヘテロ教会

暑さも時折覚えるようになりました。

司祭は週報その他の印刷物や教区の今後の方針のコピー等を訪問しながらお届けしています。

五月三〇日、佐藤智彦邸の棟上式に一〇名が集い、ここに住むご家族のため、家のため、工事のために祈り、棟札としての十字架、東西南北、四隅の柱、玄関等の祝福が行われました。

六月一四日(日)の聖餐式・教会委員会をもって(対策を講じながら)通常通りのスタートとなりそうです。

▽聖マーガレット教会

五月一八日、『ザイ・キン グダム・カム み国が来ます ように』を郵送にて配布する。昇天日から使用するため。

二三日(土)、その六頁、ジョージ・ハーバートの祈り

に惹きつけられた。「多くのものを与えてくださった神よ、さらにもう一つものを与えてください。感謝する心を。」ハーバートはウェールズ出身の一七世紀イングラントを代表する詩人。

信徒より、毎日、小冊子を用いて祈っているとの方が届く。

▽深川聖三一教会

五月の毎主日も歎願式を行う。病者、医療従事者、政府関係者のために祈るや切。幼な子は小さな口で神様をほめたたえ、このたびの大流行病と戦う中に、保育園児も加わります。チャプレンは車座にローソクを灯し、光の礼拝を捧げ、病気の終息を園児と歎願形式で祈っております。

古代教会は流行病のたびにローソク礼拝をした故事が再びあけほの保育園でよみがえりました。

調理責任者、斉藤彩音さん 五月末、退職される。六年間の勤務有難うございました。新生活のご多幸を祈る。

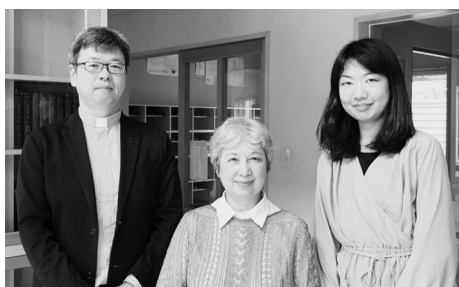
教区事務所職員紹介

いつも事務所・職員のためにお祈りくださりありがとうございます。

教区事務所では山崎典美さん(旭川)が副主事として九年前にわたってご奉仕くださいました。改めて感謝いたします。

今年からは副主事として金内淳子さん(札キ・一月)、書記として高橋愛さん(小樽・四月)がご奉仕くださっています。事務所の業務は会議の開催や事務が主ですが、どれも宣教のみ業に与るものがあります。今後ともよろしくお願いたします。

(主事/司祭 永谷 亮)



左から、主事/永谷司祭、副主事/金内さん、書記/高橋さん